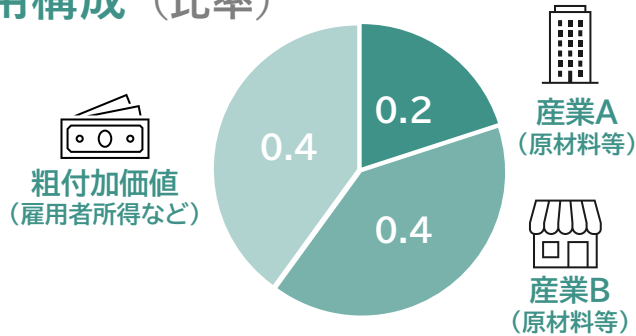


各種係数表からわかること

各種係数表(地域内表・地域間表)共通資料

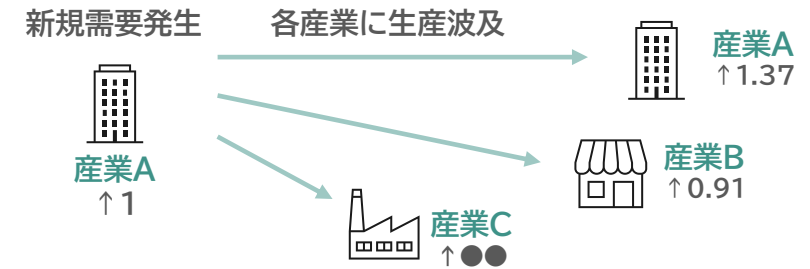
投入係数表

産業別の生産に必要な
原材料や給与等の費用構成 (比率)



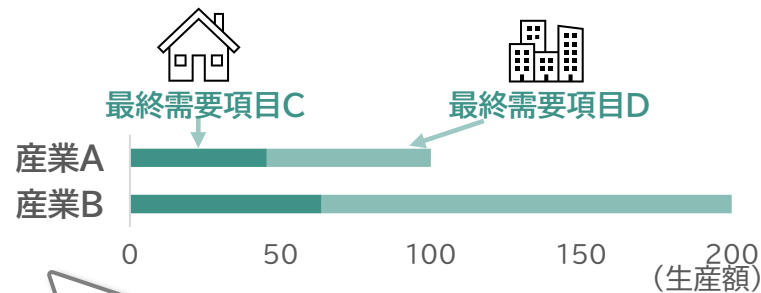
逆行列係数表

ある産業に新たな需要が生じたときに、各産業に
どれだけ生産が波及するか (比率)



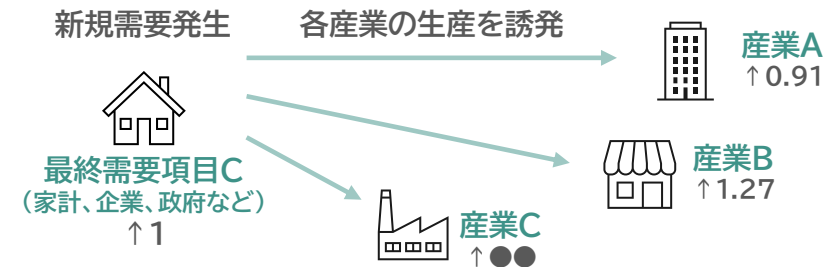
最終需要項目別生産誘発額表

各産業の生産が、どの最終需要項目 (家計、企業、
政府など) からどれだけ誘発されたか (金額)



最終需要項目別生産誘発係数表

各産業の生産が、どの最終需要項目 (家計、企業、
政府など) からどれだけ誘発されるか (比率)



各領域をクリックすると、それぞれの解説ページに移動します

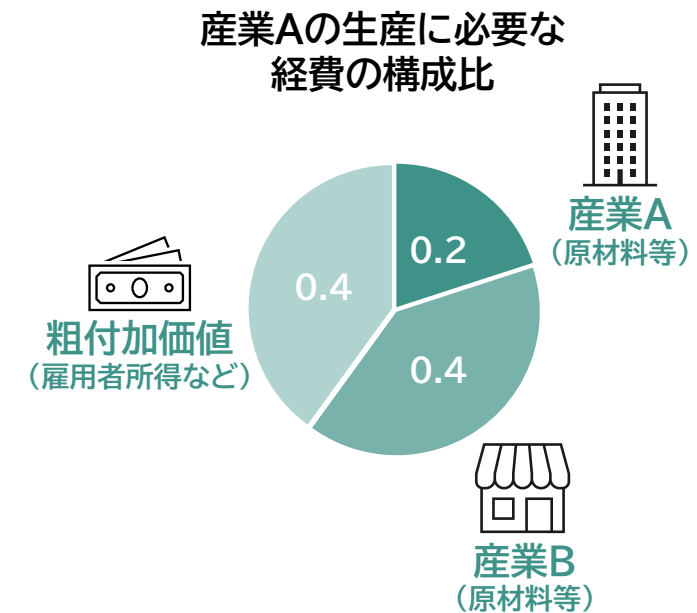
投入係数表からわかること

各種係数表(地域内表・地域間表)共通資料

産業別の、生産活動に必要な費用構成（比率）

タテに読みます。表頭の産業が生産活動をするに当たって、どの産業からどれだけ原材料等を購入し、どれだけ労働、資本、間接税などを必要としたか、**生産に必要な経費の構成比**がわかります。

	産業 A	産業 B
産業 A	0.2	0.1
産業 B	0.4	0.4
粗付加価値	0.4	0.5
計	1.0	1.0



Point 産業Aは、1単位生産するために原材料として産業Aを0.2、産業Bを0.4 粗付加価値(雇用者報酬など)を0.4 経費がかかったことがわかります。

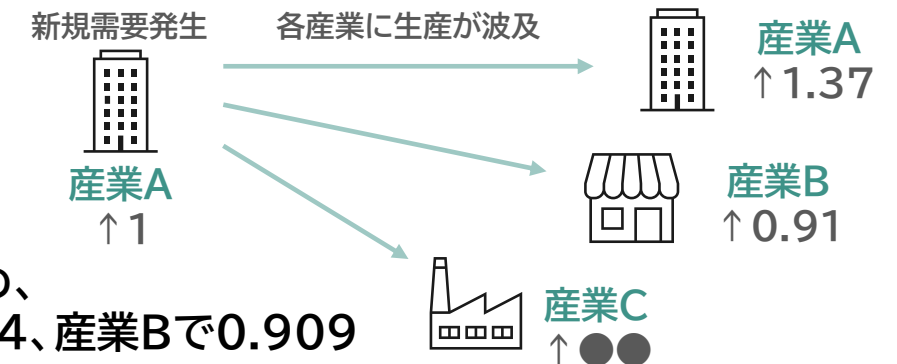
逆行列係数表からわかること

各種係数表(地域内表・地域間表)共通資料

- ① ある産業に新たな需要が1単位発生したときの、各産業への生産波及の大きさ ▶ 逆行列係数からわかります。

タテに読みます。表頭の産業に新たな需要が1単位発生したとき、その生産を賄うため、表側の各産業にどれだけ生産が誘発されたかを表しています。

生産波及の大きさ		産業 A	産業 B	行和	感応度係数
	産業 A	1.364	0.227	1.6	0.737
	産業 B	0.909	1.818	2.7	1.263
	列和	2.273	2.045		
	影響力係数	1.053	0.947		



Point

- 産業Aで、新たに1単位需要が発生したとき、その需要を満たすため、各産業に直接・間接的に生産が波及し、究極的には、産業Aで1.364、産業Bで0.909生産が誘発されたことがわかります。
- 逆行列係数表として、都内需要の一部を都外から移輸入とする開放型 $[(I - (\widehat{I-M})A)^{-1}]$ 型と、都内需要の全てを都内で生産とする封鎖型 $(I - A)^{-1}$ 型の2種類を公表しています。通常、開放型を用います。

逆行列係数表からわかること

各種係数表(地域内表・地域間表)共通資料

② 各産業が、都内産業の生産活動に与える**影響力の強さ**

▶ **影響力係数からわかります。**

表頭の産業に新たな需要が1単位発生したときの、全産業への生産波及の相対的な強さを表します。

値が大きい産業が、より多く都内各産業の生産を誘発します。(都内経済全体への影響大)

	産業 A	産業 B	行和	感応度係数
産業 A	1.364	0.227	1.6	0.737
産業 B	0.909	1.818	2.7	1.263
列和	2.273	2.045		
影響力係数	1.053	0.947		

影響力の強さ



Point

影響力係数は、産業Aで1.053、産業Bで0.947です。
1を超えると、都内平均より影響力が強く、1未満だと都内平均より影響力より弱いことがわかります。

逆行列係数表からわかること

各種係数表(地域内表・
地域間表)共通資料

③ 各産業が、都内産業の生産活動から受ける影響の受けやすさ

▶ 感応度係数からわかります。

都内各産業で1単位の需要があったときの、
表側の産業の生産波及の受けやすさを表します。

値の大きい産業が、より他産業からの影響を受けやすいです。(他産業の生産活動に敏感)

	産業 A	産業 B	行和	感応度係数
産業 A	1.364	0.227	1.6	0.737
産業 B	0.909	1.818	2.7	1.263
列和	2.273	2.045		
影響力係数	1.053	0.947		

影響の受けやすさ



Point

感応度係数は、産業Aで0.737、産業Bで1.263です。

1を超えると、都内平均より影響を受けやすく、1未満だと都内平均より影響を受けにくいことがわかります。

最終需要項目別生産誘発額表からわかること

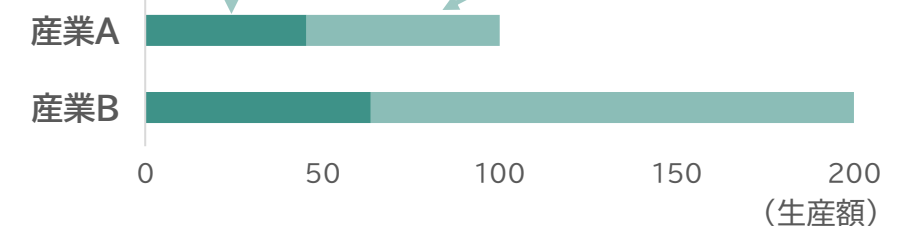
各種係数表(地域内表・地域間表)共通資料

産業別の、各最終需要項目に誘発された生産額（金額）

表頭の最終需要項目（家計、企業、政府など）が、表側の産業の生産をどれだけ誘発したかがわかります。

	項目 C	項目 D	行和（生産額）
産業 A	45.455	54.545	100
産業 B	63.636	136.364	200
合計	109.091	190.909	

最終需要項目(家計、企業、政府など)
による生産誘発額



Point

項目Cの需要を満たすため、産業Aで45.455、産業Bで63.636の生産が誘発されたことがわかります。

最終需要項目別生産誘発係数表からわかること

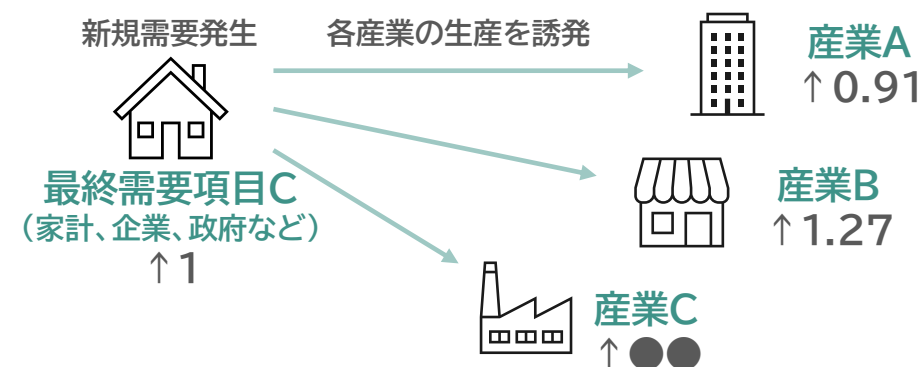
各種係数表(地域内表・地域間表)共通資料

ある最終需要項目に1単位の需要が発生したときの、各産業への生産誘発の大きさ(比率)

表頭の最終需要項目に新たな需要が1単位発生したとき、その需要を満たすため、表側の各産業にどれだけ生産が誘発されたかを表しています。

生産誘発の大きさ

	項目 C	項目 D
産業 A	0.909	0.606
産業 B	1.273	1.515
合計	2.182	2.121



項目Cに新たな需要が1単位発生したとき、その需要を満たすため、各産業に直接・間接的に生産が波及し、究極的には、産業Aで0.909、産業Bで1.273の生産が誘発されたことがわかります。

各種係数表 用語集

[各種係数表共通]

用語	説明
本社	本社活動部門。東京都産業連関表では、本社活動を独立部門として特掲し、本社活動と、財・サービスの生産部門との経済取引を明らかにしている。
内生部門	中間需要部門・中間投入部門を内生部門という。(関連する用語として、最終需要部門・粗付加価値部門を外生部門という。)
粗付加価値	各部門の生産活動に必要なとなった労働や資本、間接税などの要素費用を示している。
生産額	ある産業部門が一定期間(通常1年間・暦年)において生産した財・サービスの総額。

※ 各種係数表の部門の定義は、取引基本表を含む産業連関表全体で共通です。
令和2年(2020年)東京都産業連関表報告書64～66ページ、76～84ページをご参照ください。

[投入係数表]

用語	説明
投入係数	ある産業部門が1単位の生産をするために直接必要な原材料や給与等の投入額(中間投入)及び粗付加価値の割合。

各種係数表 用語集

[逆行列係数表]

用語	説明
逆行列係数	ある産業部門に対して新たな最終需要が1単位発生した場合に、各産業部門の生産が究極的にどれだけ必要になるかという直接・間接の生産波及の大きさを示す係数。
開放型— $(I - (I - \bar{M})A)^{-1}$ 型	都内需要の一部が都外からの移輸入に依存していることを考慮したときの逆行列係数。 通常、経済波及効果分析を行う際は、移輸入を考慮するため、開放型を用いる。
封鎖型— $(I - A)^{-1}$ 型	最終需要によって誘発される生産が全て都内で行われると仮定したときの逆行列係数。
列和	産業別の、逆行列係数の列(タテ)方向の和。
影響力係数	ある産業の生産活動が他の産業にどれだけ影響を与えているかを示す指標。
行和	産業別の、逆行列係数の行(ヨコ)方向の和。
感応度係数	ある産業が他の産業の生産活動からどれだけ影響を受けているかを示す指標。

[生産誘発額表・生産誘発係数表]

用語	説明
生産誘発額	各産業の都内生産額が、どの最終需要項目によってどれだけ誘発されたかを表したもの。
生産誘発係数	ある最終需要項目に最終需要が1単位発生した場合に、どの産業の生産をどれだけ誘発するかを示す係数。

各種係数表 もっと知りたい方へ

各種係数表(地域内表・
地域間表)共通資料

〇〇を知りたい

- ・ 投入係数表
- ・ 逆行列係数表
- ・ 影響力係数
- ・ 感応度係数
- ・ 最終需要項目別生産誘発額表
- ・ 最終需要項目別生産誘発係数表

令和2年（2020年）報告書

- ▶ 20～21ページ
- ▶ 20～22ページ
- ▶ 22ページ、48～49ページ
- ▶ 22～23ページ、48～49ページ
- ▶ 23ページ、50～51ページ
- ▶ 24ページ、50～51ページ

各種係数表 よくあるお問合せ

各種係数表(地域内表・
地域間表)共通資料

Q 「1単位」とは何ですか？

A 産業連関表では、単位の異なる様々な商品を統一的に記述するため、全ての産業の生産数量を、1円、1ドルまたは100万円等の「同一金額価値相当の数量」を単位として評価しています。

Q 各係数はどうやって求めますか？

A 各係数の求め方は、令和2年（2020年）東京都産業連関表報告書をご参照ください。

Q 投入係数と逆行列係数の違いは何ですか？

A 投入係数は、生産に直接必要な原材料や給与等の費用構成を表し、生産構造の分析に用います。一方、逆行列係数は、最終需要の変化による直接・間接の生産波及の大きさを表し、需要の変化による影響の分析に用います。

Q 生産誘発額と生産誘発係数の違いは何ですか？

A 生産誘発額は、各産業の都内生産額が、どの最終需要項目からどれだけ誘発されたか、金額で表したものです。生産誘発係数は、最終需要1単位当たりに誘発される生産額を係数で表しており、需要の変化による影響の分析に用います。